

当該技術の実施医療機関の要件（基本1）

高度先進医療名：神経変性疾患のDNA診断（153）	
適応症：ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺、McLead 症候群等の神経変性疾患	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	内科、小児科、神経科
資格	要（神経学会、遺伝学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	3例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	不要
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科）
当直体制	不要
緊急手術の実施体制	不要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例3例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本1）

高度先進医療名：脊髄性筋萎縮症の DNA 診断（154）	
適応症：脊髄性筋萎縮症	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	内科、小児科、神経科
資格	要（神経学会、遺伝学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	1例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	不要
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科）
当直体制	不要
緊急手術の実施体制	不要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例1例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本1）

高度先進医療名：特発性男性不妊症・性腺機能不全症の遺伝子診断（162）	
適応症：特発性男性不妊症、性腺機能不全症	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	泌尿器科
資格	要（泌尿器科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	3例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	不要
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科）
当直体制	不要
緊急手術の実施体制	不要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例3例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本1）

高度先進医療名：遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断（166）	
適応症：遺伝性コプロポルフィン症	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	内科、小児科 等
資格	要（小児科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	1例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	不要
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科）
当直体制	不要
緊急手術の実施体制	不要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例1例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本1）

高度先進医療名：重症 BCG 副反応症例における遺伝子診断（170）	
適応症：BCG 副反応例及び非定型抗酸菌感染で重症/反復/難治例	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	内科、小児科 等
資格	要（内科、小児科、感染症学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	3例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	不要
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科）
当直体制	不要
緊急手術の実施体制	不要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例3例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本1）

高度先進医療名：Q熱診断における血清抗体価測定および病原体遺伝子診断（180）	
適応症：Q熱（急性、慢性）	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	内科、小児科 等
資格	要（関連学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	1例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	不要
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 （薬剤師、臨床工学技士等）	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科）
当直体制	不要
緊急手術の実施体制	不要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 （患者容態急変時等）	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例1例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1）当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2）医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本1）

高度先進医療名：家族性アルツハイマー病の遺伝子診断（190）	
適応症：家族性アルツハイマー病	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	内科、神経科 等
資格	要（神経学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	2例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	不要
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科）
当直体制	不要
緊急手術の実施体制	不要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例2例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本1）

高度先進医療名：中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断（195）	
適応症：中枢神経白質形成異常症	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	内科、小児科
資格	要（神経学会、遺伝学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	1例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	不要
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科）
当直体制	不要
緊急手術の実施体制	不要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例1例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本1）

高度先進医療名：活性化血小板の検出（211）	
適応症：急性期及び慢性期脳梗塞患者、睡眠時無呼吸症候群、心筋梗塞などの動脈血栓症	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	内科、循環器科、耳鼻科 等
資格	要（関連学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	3例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	不要
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科）
当直体制	不要
緊急手術の実施体制	不要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例3例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本1）

高度先進医療名：ケラチン病の遺伝子診断（219）	
適応症：ケラチン病（水疱型魚鱗癬様紅皮症、掌角化症 など）	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	皮膚科
資格	要（皮膚科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	1例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	不要
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科）
当直体制	不要
緊急手術の実施体制	不要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例1例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本1）

高度先進医療名：隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断（220）	
適応症：隆起性皮膚線維肉腫	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	皮膚科
資格	要（皮膚科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	3例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	不要
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科）
当直体制	不要
緊急手術の実施体制	不要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例3例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本1）

高度先進医療名：グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断（230）	
適応症：ラスムッセン脳炎、小児の慢性進行性持続性部分てんかん、オブソクローヌス・ミオクローヌス症候群	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	内科、神経科
資格	要（関連学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	1例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	不要
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科）
当直体制	不要
緊急手術の実施体制	不要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例1例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

2 悪性腫瘍の遺伝子診断

- 固形腫瘍のDNA診断
- 子宮頸部前癌病変のHPV-DNA診断
- 固形腫瘍（神経芽腫）のRNA診断
- 低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断
- 高発癌性遺伝性皮膚疾患のDNA診断

当該技術の実施医療機関の要件（基本2）

高度先進医療名：悪性腫瘍の遺伝子診断（73）	
適応症：胃癌、大腸癌、膵臓癌、肺癌、膀胱癌、乳癌、子宮癌等の固形腫瘍	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	内科、消化器科、呼吸器科、産婦人科 等
資格	要（関連学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	3例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	要 病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、病理部門）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断、細胞培養等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例3例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本2）

高度先進医療名：子宮頸癌前癌病変の HPV-DNA 診断（126）	
適応症：子宮頸部軽度異形成	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	産婦人科 等
資格	要（産科婦人科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	3例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 注2)	要 病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、病理部門）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（遺伝子診断、細胞培養等に必要な機器）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（診断が確定した症例3例以上）
その他	自施設内で実施できること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。